

Ⅳ ア カ ガ イ の 種 苗 生 産

佐藤 敦 ・ 横山 勝幸

は じ め に

前年度飼育の結果、約45万個の付着期の幼生を得ることが出来たが、採苗および海中垂下以後の管理が不十分であったため、翌年3月測定の結果では1,825個体となり、かなり悪い歩留りとなった。今年度はこの時期の歩留りの向上を目標に試験を行なったが、浮遊幼生期の飼育の段階で全滅してしまい目的を達することが出来なかった。

材料および方法

1. 母 貝

(a) 兵 庫 県 産

前年度と同様、兵庫県より2回に亘り輸送したが、いずれの場合も航空便の遅れのため、積み込みしてから当センターまで満4日を要し、第1表に示すとおり大半が斃死し、生き残ったものも活力がなかった。

第1表 輸送母貝の生残率

輸 送 月 日	生 貝 (個)	死 貝 (個)	総 個 数 (個)	生 残 率 (%)
7 月 9 日	13	8	21	61.9
7 月 1 6 日	11	9	20	55.0
計	24	17	41	58.5

第2表 兵庫県産母貝の大きさ

№	殻 長 (cm)	殻 高 (cm)	殻 巾 (cm)	全 重 量 (g)	年令	軟体部重量(g)	性別
1	8.5	6.4	5.3	120	2	50	♂
2	7.5	5.7	5.1	125	2	52	♂
3	8.4	5.8	4.9	226	2	48	♂
4	7.9	6.3	5.2	123	2	46	♂
5	8.2	6.2	5.3	115	2	54	♀
6	7.8	5.6	5.1	120	2	48	♀
7	7.5	6.2	5.3	125	2	45	♂
8	7.3	5.6	5.4	115	2	45	♀
9	8.5	6.3	5.0	130	2	53	♂
10	8.0	6.0	5.0	128	2	52	♀

(b) 陸奥湾産

7月15日から8月24日にかけて、6回に亘りむつ市大湊の沖合水深15～20mのところから採捕した。

第3表 母貝の採捕数

採捕月日	採捕数(個)
7月15日	14
7月25日	11
7月30日	15
8月11日	12
8月17日	13
8月24日	13
計	78

1) 産卵誘発

前年度と同様、温度の反復刺激(20℃～30℃)をくり返した。

2) 浮遊幼生の飼育

幼生の飼育は前年度と同様、フルコンタイ水槽(0.5トン容量)を用い、また飼育水温については25℃で行なった。

結 果

1. 産 卵

誘発に応じたのは、7月22日、8月20日の2回のみで、誘発結果はあまり良くなかった。採卵数は各々1,500万粒、1,700万粒であった。

第4表 産卵誘発状況

産 地	誘 発 月 日	総個体(個)	誘発された個数		誘発率(%)	備 考
			♂	♀		
大 湊 産	7月22日	41	20	6	63.4	第1回飼育
	8月20日	45	9	5	33.3	第2回飼育
兵庫県産	7月17日	0	0	0	0	—

誘発率は、第4表に示すとおり高く、また産卵期間もかなり長期に亘っている。

2. 浮遊幼生の飼育

7月22日と8月20日の産卵群について、それぞれ4水槽宛飼育を行なった。いずれの場合も7日～10日頃にかけて水槽内に原生動物が発生し、幼生は飼育後14日目まで全滅した。飼育を中止した段階での幼生の最高殻長は155ミクロンであった。

考 察

今年度の産卵は、結果でも述べたように、かなり長期に亘るように思われた。今後は今迄の観念を打破し、産卵期の適正な把握をし、誘発方法なども更に検討する必要がある。

幼生の飼育については、飼育の技術上の問題と思われるので、今後の研究に期待する。